

(株)ミケーラによるセルフケア講座【2】

第4回：熱・インフルエンザ



株式会社 ミケーラ

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前 4-1-24 オフィスイワタ第一 2F

TEL : 03-5856-8252 (受付時間:月~金曜日 10時~16時)

FAX : 050-3601-8808(24時間受付)

HP : ホームオパシーレメディ辞典 : <http://www.homeopathy-re.com>
(レメディ検索サイト)

E-MAIL : info@homeo-school.com

【熱・インフルエンザへのポテンシー選び】

- 細菌やウィルスが原因なら
→30C 以下の低いポテンシー
と 200C(ノゾーズ)を併用なさるといいです。
※ノゾーズとは、インフルエンザなら Infla.と言う、インフルエンザウィルスから作られた
レメディで、細菌やウィルスから作られたレメディのことを言います。
 - 一度かかったのに、何度も同じ病気にかかる場合
(例: 何度も溶連菌感染症にかかる、毎年インフルエンザにかかる、など)
→低いポテンシーと高いポテンシーの両方
 - 遺伝的なことが原因なら
→低いポテンシーと高いポテンシーの両方
※遺伝的なことが原因なら、ホメオパスにかかることをオススメします。
-

【熱・インフルエンザへのレメディリピートの目安】

- 6C・30C
→1 日 5~7 回、熱が下がるまで同じ物を取る。
7 回取って、変化が見られないなら、違うレメディに変える。
※ レメディを取って一時的に熱が上がる場合は、そのレメディが合っていることが多いので
リピート回数を増やして下さい。
ペットボトルのお水やリンゴジュース、スポーツドリンクなどに
合っているレメディ全てを入れて、そのお水を飲む方法もオススメです
(ホメオパシー用語で水ポテンシーと言います)。
 - 200C 以上
→1 日 1~3 回、熱が下がるまで同じ物を取る。
※インフルエンザにかかった場合は、インフルエンザノゾーズは必須のレメディです。
 - TS(ティッシュソルト)やサポートレメディ
→1 日 1~3 回、発熱後の衰弱が治るまでずっと使う。
-

【ウィルス感染 or 細菌感染の見分け方】

インフルエンザやプール熱など、ウィルスが原因の場合と
溶連菌など、細菌が原因の場合では、レメディ選択が変わってくるので

ここでは、簡単に「ウイルス感染 or 細菌感染の見分け方」を説明します。

ウイルスが原因の場合

風邪の発熱は 8 割がウイルス感染とされています。

ウイルス感染の発熱は

- 朝は比較的熱が下がっていて、夕方から夜にかけて熱が上がるという特徴があります。

細菌が原因の場合

細菌感染の発熱は

- 朝も熱が高い。鼻水や痰などの分泌物が粘っこく、黄色や黄緑色をしていることが多いという特徴があります。

ウイルス感染なのか？細菌感染なのか？は、医師でも見分けることが難しいとされていますので、目安にしてください。

どんな場合に何を使えばよいかを知っておくと、迅速にレメディを選択できるので、ここからは症状別レパートリーを掲載します。

熱・インフルエンザに対して、上手にホメオパシーを使ってくださいね。

【2. 熱・インフルエンザへのレメディレパートリー】

オススメポテンシーがあるレメディに関しては、レメディ名の後ろにポテンシーを記載します。記載のない物は、30C がオススメポテンシーです。MT)と書かれた物は、マザーチンクチャーです。

発熱全般

※下記レメディとは別に、どんな熱でも最初に Acon.と Ferr-p.と Oscill.を使って下さい。

発熱へのレメディ	
熱の No.1 レメディ	Bell.(ベラドーナ)3C Hyos.(ハイオサイマス) Stram.(ストラモニューム) ※ナス科から作られたレメディで、発熱 3 兄弟と言われています。熱っぽいな、と思ったらこの 3 種を何も考えずに使って下さい。 MT)エキネシア